

令和元年度第1回

幸手市総合教育会議議事録

招 集 期 日	令和2年1月14日（火）午前9時00分					
開 会 場 所	幸手市役所第二庁舎 2階 第2会議室					
開 会 の 日 時	令和2年1月14日（火）午前9時00分					
閉 会 の 日 時	令和2年1月14日（火）午前9時59分					
出席状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	齊藤 一夫	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	会田 研司	出席
	職務代理者	尾島 紗緒里	欠席			
	教育委員	満木 信吉	出席			
傍聴人：0人				書記：大竹 孝典・河口 奈緒		
議事参与者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	杉田和洋				
	政 策 課 長	安部貴昭				
	総 務 課 長	長田 広				
	指導課主席指導主事	木野内英雄				
	社会教育課長	百瀬 修				
	政策課主席主幹	藤河克浩				

議 事	顛 末
<p>開 会 午前9時00分</p> <p>あいさつ</p> <p>日程第1 協議調整事項 及び報告事項 協議調整事項第2号 幸手市の教育行政について</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 市長公約のうち、「教育・子育て支援事業の刷新」に係る市長の思いについては、令和元年第4回幸手市議会定例会の一般質問で市長がご答弁された内容を、先月の教育委員会定例会の中で教育委員の皆様にご説明したが、改めて市長から教育行政に関する所感を述べていただき、その後、委員の皆様からご意見やお考えを伺いたい。</p> <p>市長 昨年10月の市長選で掲げた公約のうち、「教育・子育て支援事業の刷新」については、三つの方針を掲げた。一つ目は、「県内トップレベルまでの学力引き上げ」、二つ目は、「子育てしやすい環境の整備」、三つ目は、「公立幼稚園の検討」である。教育行政に関する所感については、市議会でも申し上げたところだが、改めて申し上げる。私は、急激な人口流出に歯止めをかけ、財政基盤の建て直しを図るためにも、幸手市政を総点検して、より効果的で効率的な行政運営を行う必要があると痛感している。これにより、市民が幸手市の未来に夢と希望を持てるような、未来志向の街づくりを積極的に進めたい。そのためには、幸手市の子供達が将来、地球規模で活躍・貢献できる人に育つような、グローバルな基礎教育が必要だと考えている。そのひとつの指針として、「県内トップレベルまでの学力の引き上げ」を公約として掲げた。これは、子供達が健全に成長するために必要な学力を身に付けることを目標に、目に見える数値の一つとして全国及び埼玉県学力・学習状況調査の平均正答率の向上を目指すもので、そのために必要な施策や環境整備を実施していくものである。財政面の問題もあるが、最新の機器を学習に取り入れている先進地も参考にしていきたい。なお、テストの結果や成績だけが全てではないので、子供</p>

達が変化の激しい社会で活躍できる資質や能力も身に付けられるようバランスよく育てていきたい。

次に、「子育てしやすい環境の整備」と、「公立幼稚園の検討」だが、私は、全ての子供達を幼少期から最善の環境で子育てできるように、保育園や幼稚園、学校、家庭や地域との総合的なネットワークを充実させた子育て環境を構築することが重要だと考えている。そうした環境の中で、人間性や社会性、協調性を兼ね備えた子供を育成する教育を推進していきたい。

また、市民が生涯にわたって学び、活動することを通じて、心豊かな人生を送れる社会教育・文化の街を目指していきたいとも考えている。歴史・伝統文化の継承と活用に繋がる様々な事業を展開するとともに、社会参加や健康寿命の延伸を目指す社会教育の更なる充実を図っていきたい。

市長に就任して3か月半余りだが、私が考える教育の実現が簡単に実現できるものではないことは、重々承知している。しかし、財政的な問題もあるが、中長期的な視野に立って道筋を示すことが大事だと思っているので、教育長をはじめ、教育委員の皆様方のご理解・ご協力を賜りたい。

《意見交換》

満木委員

市長に二点、ご提言したい。一点目は、子供達のスマホ使用に係る規制条例の制定について、二点目は、子供達が英語学習に使用する専用端末を整備するための予算確保についてである。

まず一点目だが、私は、子供達が今後の進学を有利に進めるとともに、社会に出てから自立して生きられる能力を身に付けるには、活性化された脳を育むこと、そして高度な読解力を身に付けることが重要だと常々申し上げている。活性化された脳を育むには、子供達の脳を委縮させるスマホの使用を規制することが大事で、これを市の条例で規制していただき、保護者や教員の意識を変えていただきたいと思っている。既にスマホの使用を規制する条例を制定した自治体も複数あるので、幸手市でも是非、ご検討いただきたい。また、高度な読解力を身に付けることは、長文化してきている受験問題や国家試験等への対応

力に繋がるとともに、社会に出て新しい知識を吸収するためにも必要な能力だと考えている。

二点目だが、これからの英語は、受験のためだけに学ぶものではなく、社会に出てからも活用できる能力を身に付けなければならない時代である。日本では、スピーキングに重点を置いて指導しているが、鳥飼玖美子先生をはじめとした英語学者の方々は、高度なリーディング力とリスニング力を身に付けた上で、スピーキングに移るべきだとおっしゃっている。また、高度な能力を身に付けるためには、楽器の習得と同じように毎日30分から1時間、繰り返しリスニングとリーディングを行うことが大事だとおっしゃっている。そのためにも、子供達が教科書レベルの英語を毎日聴ける専用端末を整備するための予算確保をお願いしたい。

市長

満木委員のお話は、まさにその通りだと感服している。まず、子供達のスマホ使用を規制する条例については、教育長や関係部局を含めて十分、研究・検討する必要があるが、方向性としては同意する。私は、バランス論を大事にしており、スマホについても全てを規制するのではなく、学業の妨げにならない割合をどこに定めるかが大事だと思う。条例を制定するのであれば、その割合についてもよく検討したい。

次に英語の話だが、私の息子はラジオで3年間、英語を学習して、アメリカの大学へ進学した。本居宣長の著書にもあるが、学問の仕方は如何ようにでもよく、弛まず怠らず継続することが大事だと思う。また、後で申し上げたいが、見識が深い教育長よりコメントをいただきたい。

教育長

スマホの弊害による脳の問題は、極めて大きな問題だと思っている。そこで、教育委員会では子供達と議論を重ねた中で、スマホの自主規制を実施し、各学校で取り組んでいるところである。条例の制定については、市全体の街づくりの一つの課題かと思うので、近隣で既に取り組んでいる和光市などが参考になるかと思う。

次に、英語学習に使用する専用端末を整備するための予算確保については、市長部局の大きな課題になるかと思うが、冒頭に市長から、最新機器を学習に取り入れている

先進地の話があったが、恐らく戸田市を想定してのご発言かと思う。戸田市では、小学校1年生から専用の端末を使用して、すでに取り組んでいる。これは、教育委員会内に、新たな施策を企画・立案する課を設置し、専門スタッフが民間と連携を図るなどの取組を実施していると聞いている。先進地事例を幸手市に取り入れるためにも、先日、戸田第一小学校に職員を派遣し、視察を行うとともに、今後も適宜、情報収集に努めていきたい。教育委員会としては、教育用ICTはもはや贅沢品ではなく、学習する上で必要不可欠な物になっていると認識しているので、予算措置をお願いしたいところである。

なお、英語の学習については、授業と学習のサイクルをどうバランスよく行っていくかが大事かと思っている。

市長

英語の学習について一つ付け加えさせていただくと、私は、幼少期から英語を学習することも大事だが、まずは日本語、つまり国語力を身に付けることが大事だと思っている。日本語で書かれた長文をしっかりと読み込み、咀嚼して展開することができれば、英語は同じように頭に入ってくると思う。また、世界的に見ても自国の言語を持つ文化というのは素晴らしいことなので、まずは国語の読解力を身に付けることが大事だと思う。

満木委員

ありがとうございました。

齊藤委員

私は過去に幸手市体育協会の会長を務めるとともに、現在は、幸手市スポーツ少年団の本部長を務めているが、子供達がスポーツを通して礼儀作法や道徳など、様々なことを学んでおり、スポーツは子供達が健やかに育つ大事な要素だと感じている。しかし、最近は活動人口が減少している状況である。また現在、スポーツ少年団の事務局は、教育委員会ではなくスポーツ少年団が独自で運営しており、細かな点でも節約を心がけているが、節約したら補助金が減額されてしまい、運営が更に厳しくなっている。財政が厳しい状況なのも十分理解しているが、スポーツ少年団の努力も意識していただきたい。

それから、B&G海洋センターの体育館にあるバレーボールの支柱だが、ネットを張るための歯車がむき出しに

なっており大変危険なため、前任の社会教育課長に伝えたが、交換されていない状況である。予算の状況もあると思うが、こういった面にも是非、目を向けていただきたい。

市長

様々な施設で、修理・修繕が行き届いていない状況であることは把握している。予算の問題もあるが、そのままが良いということにはならないので、最低限、子供達が運動しやすい環境を整えられるよう知恵を絞るとともに、改めて財源を見直して、対応を検討していきたい。

それから、スポーツの話だが、私も柔道を40～50年近くやってきたが、スポーツ教育というのは一生涯、大事なことだと思う。人間はそれぞれ得意・不得意があるが、個々の良さを認めて褒めて伸ばすことが、教育者に求められる大事な部分だと思う。スポーツを通じて個々の良さを大事にする、そういう幸手市によりなしてほしいと考えている。

齊藤委員

本日の総合教育会議は、市長と教育委員が自由に意見交換する場だが、スポーツ関係団体と市長が意見交換する場というのは無かったので、是非、そういう場を作っていたけるとありがたい。

市長

幸手市は、悲観的な言い方ではなく、財政問題や人口問題を中心として飛躍する曲がり角だと考えている。そういった中で私は、東部地区の中ではトップクラスになりたいし、なれるポテンシャルを持っていると常々思っている。しかし、昨年発生した台風19号で改めて感じたが、市の職員は一丸となって一生懸命対応したが、限界があると感じた。そういった面からも、地域とのコミュニケーションを図りながら、地域・学校・行政が三位一体となって進めていくことが大事だと思う。委員からご提言いただいたことを大事にして、様々な機会場で場を設けていきたい。

齊藤委員

よろしくをお願いします。

会田委員

市長が選挙公約で掲げた「県内トップレベルまでの学力

の引き上げ」についてだが、やはり必要なのは人・物・金だと思う。もちろん、財政的な面を考えればお金をかけずに学力を上げることが理想だが、それは難しいと思うので、教員や指導主事の増員、学校が自由に使える教育予算など、市長に就任されて最初の予算なので、ご配慮いただけるとありがたい。また先程、教育長からも話があったが、学力向上の為の専任組織や担当者を置くという取組も必要ではないかと思う。

それから、私が心配しているのは、小学校から中学校へ進学すると学力が伸び悩む傾向にあることで、幸手市は特に英語が低い状況である。その辺のテコ入れを来年度、具体的にどう取り組んでいくかが一つポイントになるのではないかと思っている。

最後に、幸手市東地区の児童・生徒数の減少問題だが、吉田小学校は来年度、複式学級ができる状況がある。今後、八代小学校や権現堂川小学校についても同様の可能性があると思う。小規模学校が悪いということではないが、将来の方向性を定めるためにも、校長や教員、保護者の意見を取り入れながら検討しなければならないと思う。非常に難しい問題かと思うが、市長の見通しやお考えがあれば伺いたい。

市長

教育は、一朝一夕で大きく変化するものではなく、極めて長期的な課題だと考えている。そういった中で変革するためには、委員が言われたように一つは、人・物・金に集約できるかと思う。人については、教育長が非常に苦心されて、足元を固めてこられたとつくづく感じているので、私の出番は、物と金だと思う。その辺のバランスをどう持たせながら教育のレベルアップを図るかということを経営的に考えていく必要があると思う。教育長とも相談するが、市民や教育現場の方から教育・子育てについて自由闊達に意見交換をできる場を作れたらと思う。

教育・子育てについては、幸手市全体としての方向性に関連する問題だと思う。それぞれの地域特性や、過去の歴史・伝統などをトータル的に考えた中で、5年後、10年後の幸手市の有り様を作っていきたいと考えている。そのためにも私は、できるだけ市民に提示し、幅広い意見を聴いていきたいと思っている。その辺についてはもう一

度、頭の中を整理して、教育長や教育委員の皆様とよく話し合いながら前に進めていきたい。

満木委員

3年近く教育委員を務めさせていただいて感じたのは、教育行政において一番の要諦は、どれだけ優秀な教員を集められるかということである。これには、教育長の人望や知見などの総合力が求められ、山西教育長を慕ってどれだけ優秀な教員や指導主事が集まっているか、直接お話しいただければご理解いただけると思う。先程、市長から市民に提示するとの話があったが、その前段として、教育長や教育行政に係わる職員の専門知識を聴いた上でご提示いただきたい。

それから、これはお願いだが、教育現場では、予防注射や健康診断など、様々な面で医師会や歯科医師会、薬剤師会の先生方にご協力いただいている。昨年、川島隆太先生にご講演をいただいた際にも、北葛北部医師会の能美会長にご尽力いただくとともに、報酬についても3医師会に補助いただいたところである。そういった面からも教育委員に医療関係の専門知識を持った方がいることは非常に有益だと思うので、是非、ご推挙いただきたい。

教育部長

全体を通して市長から総括をいただきたい。

市長

市長に就任して初めての会だが、大変貴重な意見や課題を頂いたと感じている。幸手市の教育・子育て支援事業の充実・向上に向けて本日頂いたご意見等を参考にしながらより良い教育行政を実現していきたい。

教育委員

ありがとうございました。

日程第2 教育大綱について

総務課長

昨年3月に策定した「幸手市教育大綱第2次」について、木村市長が新たに就任したことから、市長の挨拶や公約の部分について、市長と事務局の調整により改訂したいが、教育委員のご意見を伺う。

教育委員

全員異議なく承認。

閉 会
午前 9 時 59 分

教育部長
改訂版を作成したら教育委員の皆様に改めて配布するとともに、議会等でも報告したい。

教育部長
閉会を宣す。

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: right;">令和2年 2月12日</p> <p style="text-align: center;">教育委員 満木信吉</p> <p style="text-align: center;">教育委員 会田研司</p>